

地域の防災力の向上、交流人口の拡大に向けた取組について

澤井 一富（市民クラブ）



【地域の防災力の向上について】

問 南海トラフ地震により津波が発生した場合の本市の対応は。

答 推定震度4以上や津波警報が発表された場合は、全国瞬時警報システムにより防災行政無線や携帯電話を通じて、市民に周知される。本市の対応としては避難指示を直ちに発令し、発災後は状況に応じて避難所を開設する。備蓄品等の提供を行いながら、被災者支援を行っていく。

問 地震発生時には、今いる場所が海拔何メートルなのか把握する必要がある。電柱等に表示してある標高表示看板は本市に何か所あるのか。

答 市内の海岸線を中心に電力柱、電話柱1,000か所に設置している。

要望 ゴミステーションの金網などに表示すれば多くの方の目に触れると思う。設置の検討をお願いします。



▲電柱に設置してある標高表示看板

【交流人口の拡大に向けた取組について】

問 五和町には多くのキリシタン墓碑群があるが、草刈り等の管理が難しくなっている。市が貴重なキリシタン遺産を管理する考えはないか。

答 個人所有の墓碑群については、行政による管理は難しい。地域の貴重な財産である墓碑等は、所有者管理のもと地域の協力により保全されていることに改めて感謝する。



「天草版地方創生への挑戦」について

五嶋 善彦（市民クラブ）



問 合併以来「ヒト、モノ、カネ」等が中心部に移動し、一極集中が進んでいる。国における地方創生に置き換えて「天草版地方創生」とされた、市長の考えは。

答 市の中心地である本渡地域の都市機能充実を図りながら、歴史や文化、産業、人、自然資源豊かな各地域がつながり、ヒト、モノの交流と循環により、市全体の活性化を図るものである。

問 合併の目的として、類似施設を集約し、ネットワークを構築することが挙げられていた。複合施設「こころす」や「あましんスタジアム」など、利用促進のための交通アクセスの構築は。

答 本市の公共交通については、地域内の移動にAIオンデマンド乗合タクシー等の導入を図り、幹線区間では、路線バスを集約し、1時間に1便程度の運行確保や快速ダイヤの導入を検討している。



▲AIオンデマンド乗合タクシーの実証運行

問 今回の施政方針において「天草版地方創生推進本部を設置し、強力に支所の取組をバックアップする」とあるが、この事業に対する、市長の考えを伺う。

答 少子高齢化による担い手不足の進行など、私たちを取り巻く社会環境の変化に対応する地域活動を推進するためにも、推進本部で協議しながら、人づくりを中心とした各地域の活力を取り戻していくまちづくりの方向性を定めていく。



本市の動物愛護の取組、雲仙・天草国立公園指定70周年の取組について

五通 俊作（公明党）



【市営住宅におけるペット共生の可能性について】

問 市営住宅でのペット飼育を可能とする考えはないのか、市長の考えを伺う。

答 市営住宅は、入居者や近隣住民の安心安全な生活環境を保つことが重要と考えるため、現時点ではペットの飼育を可能とすることは考えていない。

【雲仙・天草国立公園指定70周年の取組について】

問 70周年への取組とその進捗状況は。

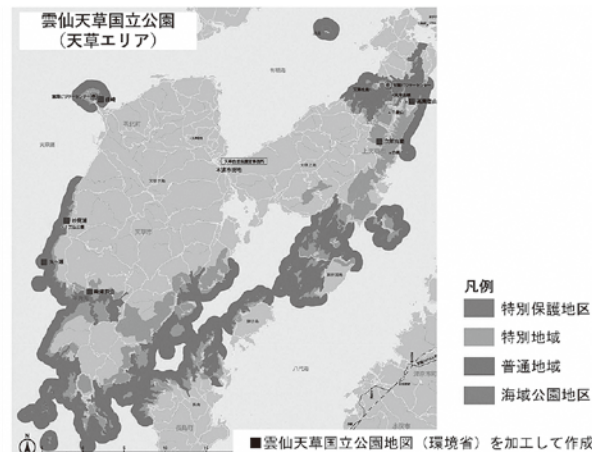
答 70周年の記念イベントでは、交流や関係人口の増加などを目指し、長距離のサイクルイベント開催に向け、本年度プレ大会と令和8年度の本大会を予定している。

このほかに、アーカイブ展の開催に向け、資料の収集など準備をしている。

問 市長の70周年、100周年に向けての考えを伺う。

答 まずは西海岸エリアの魅力をさらに磨き上げ、長崎・鹿児島方面をつなぐ広域観光に一層の力を入れていきたい。

また、100周年に向けては、観光地域づくりの司令塔となる「観光地域づくり法人(DMO)の構築」が必要だと考えている。本市に合った観光地域づくり法人の調査・研究を進めたい。



▲雲仙天草国立公園の天草エリア



国立公園70周年事業の取組、恐竜の島博物館の現状と展望

松岡 寿（政友会）



【国立公園70周年関連事業の進捗は】

問 国立公園内の支障木の伐採や鬼海ヶ浦、鶴葉山における園地整備計画及び誘導サインの具体的な内容と進捗状況は。

答 整備計画において、国立公園区域内の景勝地で繁茂により景観を阻害する樹木の伐採は、令和6年度から2年間で実施しており、昨年度9か所、令和7年度は西平園地など10か所を計画している。また、天草町の国民宿舎跡地の利活用として、公園整備とキャンピングカーの宿泊設備の導入も併せて計画している。観光サインの整備は、解説文の多言語化や案内看板の改修・更新など10か所を計画している。



▲雲仙天草国立公園（妙見浦）

【御所浦恐竜の島博物館の現状と運営方針】

問 観光客のマイカー来島は控えられているが、利用者へ向けての対策は。

答 可能な限り車での来島を控えていただいているため、EVシェアカー5台の配備や物産館による電動アシスト自転車10台の導入など、来島者の移動手段としている。

問 博物館の現状及び今後の運営方針は。

答 来館者の多くは、長期休暇や週末に集中している。秋冬や平日の増加を図るため（仮称）ティラノサウルス展や人気アニメキャラクターの活用で誘客を図りたい。また、滞在時間延長につながるツアーなどにも取り組む。